



テレワークで大混雑 ～プラグ・コードの取り扱いに注意～

1. 事故の発生状況

2015年度から2019年度の5年間にNITEに通知のあった製品事故情報^{※1}のうち、九州・沖縄8県でテーブルタップ・延長コードなどによる事故（以下「配線器具の事故」という）や電気製品の電源プラグ・電源コードによる事故（以下「プラグ・コードの事故」という）は合計54件^{※2}ありました。

(1) 県別および年度別事故発生件数（表1）

表1 配線器具の事故とプラグ・コードの事故の県別および年度別事故発生件数（2015～2019年度）

発生年度	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
2015年度	5	0	2	1	0	0	1	0	9
2016年度	12	0	3	2	0	1	1	2	21
2017年度	4	0	2	3	0	1	1	1	12
2018年度	6	0	1	0	0	0	1	3	11
2019年度	1	0	0	0	0	0	0	0	1
事故件数	28	0	8	6	0	2	4	6	54

※1:消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

※2:重複、対象外情報を除いた事故発生件数

(2) 県別および被害状況別事故発生件数（表2）

表2 配線器具の事故とプラグ・コードの事故の県別および被害状況別事故発生件数（2015～2019年度）^{※3}

被害状況		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
人的被害	死亡	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	重傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽傷	2	0	0	0	0	0	0	0	2
物的被害	拡大被害	20	0	5	6	0	2	3	5	41
	製品破損	6	0	2	0	0	0	1	1	10
被害なし		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		28	0	8	6	0	2	4	6	54

※3:表2において人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 暖房器具の事故の事故事例

(1) 2018年3月（福岡県、40歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

使用中の電気ストーブ付近から出火して、周辺を焼損し、家人1人が火傷を負った。

【事故の原因】

電源プラグを延長コードのマルチタップに長期間接続したまま放置していたため、接続部に埃等が蓄積し、トラッキング現象が生じて焼損したものと推定される。

(2) 2016年10月（福岡県、40歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、電気ファンヒーター及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

本体側の電源コードプロテクター付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線状態となり、短絡・スパークが生じて出火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり引っ張ったりしない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

(3) 2016年4月（沖縄県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

延長コード付近から出火し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

軒下で電気洗濯機に給電していた2本の延長コードの間で差込みプラグの両刃が溶断していることから、雨水や埃の影響でトラッキング現象が生じて出火したものと推定される。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構」＋「NITEのロゴ」としてください。

（本件に関するお問い合わせ先）

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 担当者 矢代、原田

電話:092-551-1315 FAX:092-551-1329